

## 地方病性牛白血病から牛を守りましょう！



地方病性牛白血病（EBL）はウイルスを原因とし、リンパ肉腫（腫瘍）を主徴とする牛・水牛の病気です。届出伝染病に指定された平成10年の当時は99頭とそれほど多い病気ではありませんでしたが、年々増加し、平成28年には3,125頭の発生が確認されています。

発症率は感染牛のうち2～3%と、一見低いように感じるかもしれませんが、発症牛はと場で全廃棄となるため、1頭でも出ますとその被害額は無視できるものではありません。そのため、EBLは養牛農家さんに経済的な被害をもたらす主な慢性疾病といっても過言ではありません。

EBLはウイルスを含む血液や乳汁を介して感染します。感染牛は生涯にわたって感染源となり、今はまだ治療法やワクチンが存在しないため、新たな感染牛を生まないこと、つまり感染防止対策を講じることがとても重要です

（詳細については2ページ目の図をご覧ください）。

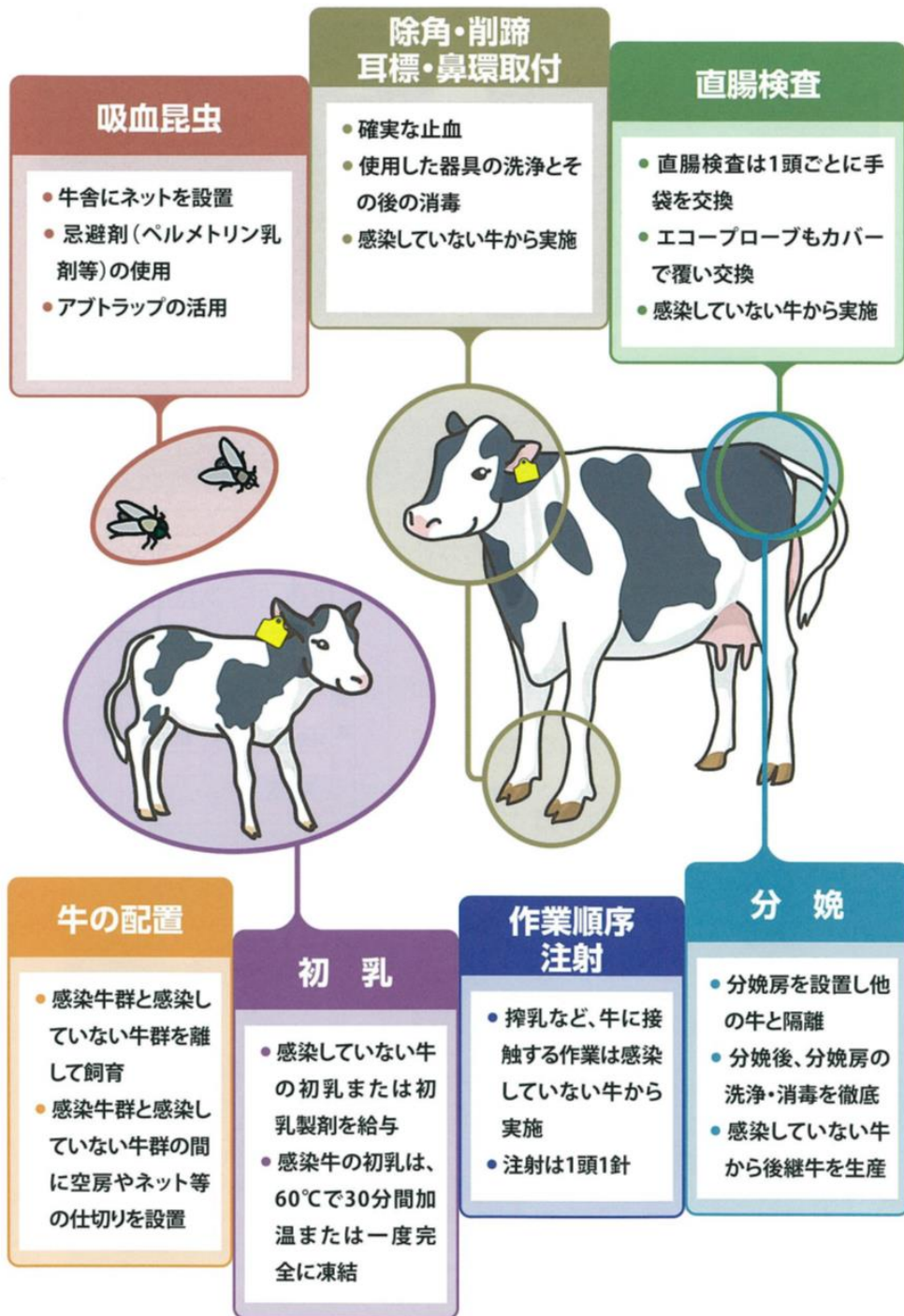
現在、愛知県では畜産協会の事業の一環で、牛白血病ウイルス抗体検査費の半額補助（1頭500円）や吸血昆虫の忌避・駆除対策補助金（注）制度があります。まずは検査を実施して農場の現状を把握し、その結果をもとに農場に合った対策を講じて、少しでもEBLの発生リスクを抑えていきましょう。

検査や対策などで分からないことがありましたら、一度ご相談いただければと思います。

注：対象となるには条件や枠等がありますので、あらかじめご了承下さい

東部家畜保健衛生所  
防疫第一グループ（牛） 0532-45-1141

## 感染を防ぐための飼養衛生管理ポイント



【図】EBLの清浄化に向けて  
出典：中央畜産会（平成26年2月）